

## 占領下の日本における家庭科教育の成立と展開 (XVII)

—「昭和二十四年度学習指導要領家庭科編高等学校用」の成立事情について—

柴 静 子

(2003年9月30日受理)

The Establishment and Development of Homemaking Education in Japan under the Occupation (XVII)

— The Formation of the Course of Study in Secondary Homemaking Education in 1948 —

Shizuko Shiba

This report clears the process of the formation of the course of study in secondary homemaking education revised in 1948. By the analysis of the homemaking curriculum in New York State, CIE Records and Japanese documents, the results were as follows:

1. D. S. Lewis in CIE indicated that the homemaking curriculum revision committee had to refer to the secondary homemaking curriculum in New York State.
2. As compare the New York State homemaking curriculum and course of study in 1948, many similarities were seen in both structure and contents.
3. D. Lewis directed homemaking course of study in the high school in Japan in the summer of 1948. As she returned to her country in September of 1948, Japanese committee decided to amend this course of study to adapt Japanese home life and so on.

Key words: homemaking education, D. Lewis, course of study, curriculum, under the occupation

キーワード: 家庭科, ルイス, 学習指導要領, 教育課程, 占領下

### はじめに

日本が連合国軍 (GHQ/SCAP) の占領下にあった1949(昭和24)年8月29日、「昭和二十四年度学習指導要領家庭科編高等学校用」(以下二十四年度版要領と略記する)が発行された。この指導要領は、戦後の高等学校家庭科教育の内実を初めて形成したものであり、それまでの1947(昭和22)年及び1948(昭和23)年発行の学習指導要領とは異なる意義をもっていた<sup>1)</sup>。

二十四年度版要領の作成にあたり、文部省の日本側作成委員会を指導したのは、CIE (民間情報教育局) の家庭科教育顧問、D. S. ルイス (Dora S. Lewis) であった。1948年6月に来日したルイスは、昭和二十三年度版指導要領の改訂を主目的にしており、同年の7月から9月までに集中的に日本側委員会の改訂作業を指導・助言したと言われている。

その成果である二十四年度版要領は、①教科内容が

5領域 (被服, 食物, 住居と家事経理, 家庭衛生, 家族関係と子供) から8領域 (被服, 家庭経済, 家庭管理, 家族, 食物, 衛生, 育児, 住居) に拡張されたこと, ②新科目である「一般家庭」(選択科目)が設置され, 14単位を与えるとしたこと, ③この教科の優れて本質的な学習指導方法であるホームプロジェクトや学校家庭クラブの導入が図られたこと, ④ユニットキッチンの設置が推奨されたことなどを特徴とした。そして, この教科の最終目的は, よい家庭人, 社会人となるために家庭生活を理解し, その価値を認識する人間を育成することであるため, 男女に等しく必要であるが, 特に女子には少なくとも14単位必修にさせることが望ましいとされた。

それでは, この二十四年度版要領は, ルイスのどのような考えが反映されたものであったのか, GHQ文書によると, ルイスは委員会にアメリカニューヨーク州のカリキュラムを提示し, よく読んでおくようにと

指示している<sup>2)</sup>が、それはどのようなもので、いかに要領に反映されたのかなど、いくつかの疑問点が残されている。

本研究では、二十四年度版要領作成を巡る疑問点のうち、ひとまず、上記の二つを明かにすることを目的とした。

## I. ホームプロジェクト導入に関するルイスの指導

1949(昭和24)年2月14日、文部省より府県教育委員会・知事・附属高校をもつ教員養成校長に宛てて、発教第78号『『家庭実習の手引』の配布方依頼について』が通知された。この『家庭実習の手引』は、ルイスが原案を執筆し、日本側が修正を加えてネルソン(I. Nelson)の了承を得た後に、日本語に翻訳されたものであった。ルイスの提唱によって、高等学校の家庭科教育の指導方法としてホームプロジェクトが導入された当初、全国の教師たちは、情報が限られている中で、実践の指針をこの冊子に頼る部分が大きかった。

さて、CIE文書の中に、ルイスの書いた『家庭実習の手引』の原文が残されている<sup>3)</sup>。表紙のタイトルは『HOME PROJECT METHOD Homemaking Education』であり、「Rough Copy」という文字とルイスの署名が加えられている。

内容を見ると、実験学校において、ホームプロジェクトや新教育課程について研究・実践を進めるために使用する手引書として執筆されたものであることが明らかである。すなわち、インデックスの前に、「高等学校家庭科実験学校の校長・教師の考慮すべき重要な問題 (IMPORTANT CONSIDERATION FOR ADMINISTRATORS AND TEACHERS IN DEMONSTRATION SCHOOLS FOR HOME MAKING IN UPPER SECONDARY SCHOOLS)」と記載されていること、さらには文部省指定の最初の家庭科実験学校の一つであった盛岡高等学校に、この手引書の中の「実験学校となるための家庭科指導の基本的な性格 (Some Essential Characteristics of a Homemaking Department that is to become a Demonstration Center)」及び「家庭科教室のいくつかの基準 (Some Standards for homemaking rooms)」の部分がいち早く送られてきたことがそれを証明している<sup>4)</sup>。即ち、ルイスが執筆した手引書は、作成後直ちに地方軍政部に送られ、各地の実験学校の指導のために使用されたと考えることができる。

CIEの3カ月顧問として来日したルイスは、1948年9月に帰国し、そして間もなく、この手引書は日本の

家庭生活や教育の実状に適合するように修正、加筆された。それとともに、全国の新制高等学校に配布するために、インデックスの前に記載していた「高等学校家庭科実験学校の校長・教師の考慮すべき重要な問題」という文言が「1948-1949年高等学校家庭科教育 (HOMEMAKING EDUCATION IN UPPER SECONDARY SCHOOLS 1948-49)」に変更された。ただし、ホームプロジェクトの事例としてルイスが上げていたアメリカケンタッキー州の高校生の実施事例「台所の配置し直しと簡便化」はそのまま残された。

この改訂版は地方軍政部にすぐに送られたようである。新潟県では、これを関東地区軍政部から積極的に、もしくは指導的に渡されたのか不明だが、いずれにしても入手して、新潟県立新潟女子高等学校土肥博教諭が翻訳をし、『新制高等学校家庭科家庭実習 (ホーム・プロジェクト) の手引』と題していち早く県下の高等学校に配布した。そのみならず、この冊子の冒頭7頁分には、土肥教諭の「プロジェクト・メソッド (Project Method) について」という優れたガイドが加えられた。

新潟県の動きに少し遅れて、文部省は改訂版の翻訳に入り、期日までに完成させて、『昭和二十四年二月新制高等学校家庭科家庭実習の手引』として、翌年(1949年)の2月14日に全国の高等学校に配布した。さらに、2月16日から18日まで、東京第一師範学校女子部において開催された『高等学校家庭科学習指導要領研究協議会』で、都道府県の家庭科指導主事や幹部教員に配布した。

この手引は、ホームプロジェクトの実例として、アメリカケンタッキー州の高校生の実施事例「台所の配置し直しと簡便化」に代えて、文部省実験学校東京都立第四女子高等学校において、既に実施されていたプロジェクト「台所の配置のしなおしと明りとり」を提示したという特徴をもっている。

さて、『昭和二十四年二月 新制高等学校家庭科家庭実習の手引』の末尾部分には家庭科の教科課程表が掲載されており、備考の一つとして「(1)一般家庭七単位のうち五単位は学校授業とし、二単位は家庭実習 (ホームプロジェクト) とする。」と記されている。さらに提示されている教科課程表に注目すると、「一般家庭」7～14単位の内訳が、「被服(7)・経理(7)・家族(7)」のコースおよび「食物(7)・保健・育児(7)・住居(7)」のコースとされている。これは、ルイスが示唆した教科課程の原案を日本側委員会が修正した結果と見ることができる。この間の事情を、当時文部省の家庭科教育担当事務官であった重松伊八郎が説明しているので、次に記す。

## II. 高等学校家庭科新教科課程へのルイスの示唆

重松伊八郎は、1948(昭和23)年に熊本で開催された高等学校新教科課程の説明会において、同年8月26日から28日にかけて東京女子高等師範学校で実施されたホーム・プロジェクト講習会でCIEのルイスから示唆された家庭科教科課程案だとして、表1の内容を提示した。

表1. 重松が提示したルイスによる高等学校家庭科の教科課程案

基本科目	
第1学年(7単位)	
1または2学期: 収入に相応な栄養的食事を供すること、食品の貯蔵	
1または2学期: (a)収入に相応な被服計画, (b)自分の被服の調整	
3学期	: 子供の発達および家族の健康と安全
第2学年(7単位)	
1または2学期: 個人および家庭の管理(金銭管理, 上手な買物, 賢い消費)	
1または2学期: 家庭の間柄(成熟, 自分の家族, 結婚, 親となること)	
3学期	: 住居(設備, 装飾, 家屋の手入れ, 仕事の成功)
選択科目	
第3学年	
1または2学期: 食物Ⅱ(特別調理, 貯蔵, 年間食物供給), 食物Ⅲ(経理)	
1または2学期: 被服Ⅱ(家族の被服), 被服Ⅲ(特殊の問題)	
3学期	: 家庭の間柄, 保育Ⅱ, 家庭経理(家庭経済, 家庭管理)
少なくとも第2学年までは、すべての女子に必修せしめることが望ましい。 14単位を1年にまとめてしまっても差支えない。	

(熊本縣教育委員会事務局指導室編「高等学校に於ける新教科課程の解説」, 24-25頁。熊本県立八代高等学校所蔵資料。なお発行は推定1948年である。)

重松はルイスの提示した教科課程案について、次のように解説をし、また疑問を呈している。

ここに注目すべきことは、これまでのように毎週各分科毎に固定時間を設けて、通年全領域にわたって取り扱って行くやり方ではなく、各学期は専ら一分野のみの研究に打ち込み、1科をあげては他の領域に及び、六学期を以てひと通りの家庭科教育を終わるという構造である。これはのんびりだらりだらけた学習に陥らず興味に乗じて広くも深くも突っ込むことに利があることは、誰でも承認しないわけには行かない。

ところが二年間に一学期だけの被服指導にとどめ、あとは第三学年の選択の機会まで針を休めておかなければならないということには、だいたい問題を感じる人が多かろう。また日本のように家庭生活が季節に支配されることの多い国では、ある一季節の研究だけで足りるかどうか、ほかの分野はとにかく食物と被服については、不安を感じる人が多かろう。

この得失はあともわしとして、いま一つ注目すべきことは、少なくとも基本科目だけは、女子はできるだけ全部の生徒の履修せしめたいと要望されてい

ることである。高等女学校卒業生の八割まで、ただちに家庭にはいると聞いていたから、これはまた当然のことであるが、中学校で選択必修とせられているのに対して、また高等学校の必修科目が極度に制限されているのに対して、どんなものであろうか。中学校同様、実質上は必修とし、制度の体裁は選択としておく方が筋が通りはしないだろうか。

中学校における家庭科が職業科と組んで、選択必修教科となっていることは、決して全面的に女子を家事から解放することを意味するものではなく、ただ男女教育の機会均等の建てまえを制度に表現されたのに過ぎない。これが家庭科指導要領に「大部分の女子はこれを選ぶであろう」と、ほとんど全部の女子が選択することを予想したゆえんである。ところが、生徒は裁縫がいやだといって、これを選ばないものがあり、それなら農工商等の職業科を選ぶべきであるのに、そうでもなくて外国語などを取っている。学校も定見なくこれを放任して、なんら指導力を発揮していない。こんなはき違えをするものがあるとすれば、高等学校も全女子の必修とはっきりうたった方が、あるいは弊が少ないかも知れない<sup>5)</sup>。以上のような新教育課程作成に係わった重松の解説から、次の点が明らかである。

第一は、新教育課程に関するCIEのルイスの示唆の内容が、①家庭科14単位を第一学年および第二学年で取得させるが、これは全ての女子に必修とすることが望ましいとされていたこと、並びに②各学期毎に家庭科の学習領域を割り振り、六学期をもって一通りの家庭科教育を終わらせるという構想であったことである。第二は、このようなルイスの示唆に対して、重松は、基本科目を全部の女子生徒に履修させるというルイスの考えは、男女の教育の機会均等に適合しないこと並びに高等学校の必修科目が極度に制限されている現状では無理がいくことを上げて、疑問を呈している。しかし中学校において、女子ですら家庭科を選択しない状況が出てきているため、高等学校では全女子の必修とはっきりうたった方が弊が少ないかも知れないと、迷いを見せたことである。この問題は、後程、高等学校家庭科の大きな隘路として出現してくることになる。

さて、ルイスは1948年9月に帰国するが、この年の5月に設置された教科課程改正委員会の「家庭小委員会」(名称未確認)では、ルイスの指導を8月中に受けて、9月以降、高等学校家庭科の学習指導要領作成を急ピッチで進めた。そして、年内には指導要領案が文部省に提出されたことが推測できるが、この案自体は未だ発見されておらず、そのため内容は次の重松の説明から類推するほかない。

さて、ルイスは1948年9月に帰国するが、この年の5月に設置された教科課程改正委員会の「家庭小委員会」(名称未確認)では、ルイスの指導を8月中に受けて、9月以降、高等学校家庭科の学習指導要領作成を急ピッチで進めた。そして、年内には指導要領案が文部省に提出されたことが推測できるが、この案自体は未だ発見されておらず、そのため内容は次の重松の説明から類推するほかない。

### III. 学習指導要領作成におけるルイスの示唆と「家庭小委員会」の要領案

先述のように、重松はルイスの新教科課程に関する示唆を真摯に受け止めて、その得失を考察するとともに、次のように、教科課程改正委員会「家庭小委員会」が文部省に提出した家庭科学習指導要領案との結合を図ろうとした。

教科課程の作り方に、これ（注：ルイスの家庭科教科課程についての示唆）をどう取り入れたらよかろうか。現行のいわゆる大学進学課程と職業課程とそのどちらにも大部分の女子に対して前記の基礎単位一四を取らせる。これを委員会案の“一般家庭”ということにすれば、単位数もほぼ匹敵して、ただそれを二箇学年にまとめてしまっただけである（七という単位は、一週間五日制のところでは二時間連続の授業を二回設けることになる。これは他の教科との調整ができれば、はなはだ都合がよいと思われる。もっとも食物では三時間連続でないといふ事習ができないともいわれるが、家庭で一回の食事支度に三時間費やすなどは適当でない。せいぜい二時間程度で、あと片づけまで済むようにしたいものである。）

大学進学課程はそれだけでおしまいにしてもよい。しかし他の大多数はもっと深く研究を進めることを欲するのであろうし、またさせなければならない。そこで、委員会案の家族、保育、経理、食物、被服の各分科のすべて、あるいはそのうち生徒の希望するものを、委員会案に示される単位のつりあいにおいて選択履修せしめることにすれば、両案の調和がここに可能となる。ただし、基本課目の上に選修するのであるから、基本をやらないうちに手を着けるわけにも行かないであろうし、基本課目の単位数だけは差し引いて考える必要もある。そうすると、だいたい次のようなことになりはしないか。

住居は、基本課目以上は家庭経理の中で取り扱う。

家庭衛生は、基本課目で相当程度取り扱われる。それ以上やりたいと思うことは、他の分野に附帯的に一たとえば乳幼児の病気とか、病人の食事とか、被服と保険というようなぐあいに取り扱うことができるし、また体育科においても指導される。むろん、家庭衛生を特設するも妨げない。

最初に提起しておいた問題、すなわち第一学年における食物、被服実習の機会が依然として許されていない。これは、第一学年は他の一般教養の教科が忙しかろうという予想によるものであるが、強いてそれを必要とするなら、二～三学年の単位のうちから、若干くり下げてよかろう。

指導要領には、この基本課目と選択科目とを明示しておいたら、実施に便宜であろうと考えている<sup>6)</sup>。

以上のように重松は、ルイスの教科課程案と教科課程改正委員会案の折衷に苦心した。その結果、「一般家庭」を帯として、その上に選択科目（家族、保育、家庭経理、食物、被服）を積み上げる方式を考え出したようである。

### IV. ニューヨーク州のカリキュラム『Planning Guide HOMEMAKING EDUCATION』と『昭和二十四年度学習指導要領家庭科編高等学校用』との比較

先述のように、新制高等学校家庭科教科課程の作成にあたって、ルイスが与えた示唆は日本側の受容するところとなったが、さらに二十四年度版要領の内容作成の際には、ニューヨーク州の最新の家庭科カリキュラム試案を家庭小委員会に参考資料として提供したことによって、甚大な影響を及ぼした。

1948年の夏、ルイスが提供したニューヨーク州のカリキュラム試案は、1950年に一冊の本となって、多くの教師の授業や研究に寄与することになった。そこで、このカリキュラム『Planning Guide HOMEMAKING EDUCATION』(The University of the New York, The State of New York Bureau of Home Economics Education, 1950)<sup>7)</sup>と『昭和二十四年度学習指導要領家庭科編高等学校用』の内容構成を比較検討することによって、双方の特徴並びに指導要領作成時における前者の影響について明らかにする。

#### (1) ニューヨーク州中等学校家庭科カリキュラム『Planning Guide HOMEMAKING EDUCATION』(1950)の特徴

ルイスが委員会に提示したニューヨーク州の中等学校家庭科カリキュラム『Planning Guide HOMEMAKING EDUCATION』の第1学年(Homemaking 1)から第3学年(Homemaking 3)までの単元構成は次のとおりである。

第1学年：単元1：家族や他人と暮らすこと

単元2：家族のための食事

単元3：自分自身と他人を理解すること

単元4：家庭で緊急事態に遭遇する

第2学年：単元1：日常生活における技芸

単元2：わたし自身を着る

単元3：もっと住みやすい家庭を作る

第3学年：単元1：家族の食物問題

単元2：家庭と地域の健康

単元3：家族の住居

単元4：結婚を楽しみに待つ

単元5：家庭の中の子ども

単元6：家族のために必要な衣服

第1学年の単元構成を例に取ると、4の単元のうち、単元4「家庭で緊急事態に遭遇する」を除いて、3つの単元内容がすべて、家政学の複数領域から構成されていることが分かる。単元1「家族や他人と暮らすこと」は、家庭経済、家庭管理、家族、食物領域にわたっており、また、単元2「家族のための食事」は、家庭管理、食物、住居領域に、そして単元3「自分自身と他人を理解すること」は家族、育児領域に及んでいる。

第1学年のカリキュラム内容は、表2の通りである。この表が示すように、同州の家庭科カリキュラムの特徴として、次の諸点を指摘することができる。

第一に、単元の学習パターンは、「計画」、「実施」、「評価」という展開になっており、問題解決の形態が取られている。

第二に、学習活動の目標は、「計画する (plan)」、「討論する (discuss)」、「発表する (present)」、「報告する (report)」、「開発する (develop)」、「研究する (study)」、「調査する (investigate)」、「評価する (evaluate)」などの行動目標の形で、具体的に示されている。

第三に、映画やラジオ放送、スライド、動画、図表、雑誌、専門書などのさまざまな視聴覚教材が授業において、積極的に取り入れられている。

第四に、医師や看護婦、ソーシャルワーカーなどの学校外の専門家が学校に招聘され、講話やパネルディスカッション、討論会などに参加している。地域の専門家の授業への積極的参加が促されている。

第五に、学校で実演したことを、家庭で実践することが生徒に求められており、学校と家庭が強く結びつけられている。

第六に、実地見学 (field trip) や討論、パネルディスカッション、研究、調査、発表などのさまざまな学習方法が授業において駆使されている。

第七に、教材内容として、家庭生活や地域社会の問題が取り上げられ、その解決が目指されている。しかし、第1学年の単元4「自分自身と他人を理解すること」では、パーティーへの招待方法から初対面での話題作りまで学習内容として取り上げられており、瑣末な実用主義に陥っている面もある。

第八に、第1学年の食物領域単元では、「7つの基

礎食品群 (Basic 7)」に基づいて、栄養のバランスを図るよう指導がなされており、最新の栄養学の成果が取り入れられ、科学的視点から日常生活での食物問題を見直すという姿勢が貫かれている。

(2) 『Planning Guide HOME MAKING EDUCATION』と『昭和二十四年度学習指導要領家庭科編高等学校用』との比較

昭和二十四年度版要領は、「I 被服」、「II 家庭経済」、「III 衛生」、「IV 育児」、「V 住居」、「VI 家庭管理」、「VII 家族」、「VIII 食物」の8つの目録 (注: 領域に相当する) から構成されている。構造を見ると、基本科目である「一般家庭」が帯として各領域にわたっており、その上に選択科目「家族、保育、家庭経理、食物、被服」が位置している。各科目は単元で構成されている。

ニューヨーク州の家庭科カリキュラム『Planning Guide HOME MAKING EDUCATION』と昭和二十四年度版要領を比較、分析したところ、次の諸点が明確になった。第一に、ニューヨーク州の家庭科カリキュラムは「単元名」、「基本的学習 (Basic Learning)」、「家庭、学校、地域における望ましい経験と活動」という項目から構成されている。一方、日本の要領は「単元名」、「目標」、「指導内容」、「学習活動」という項目から構成されている。このように両者の内容構成の枠組みは、大いに類似している。両者を比較したところ、ニューヨーク州カリキュラムの「基本的学習 (Basic Learning)」は、日本の学習指導要領の「目標」に、「家庭、学校、地域における望ましい経験と活動」は、学習指導要領の「指導内容」と「学習活動」に相当していることが認められた。

第二に、ニューヨーク州カリキュラムでは、「家庭、学校、地域における望ましい経験と活動」という項目において、学習内容と方法が区別されずに、明記されている。日本の学習指導要領の場合、両者は区別され、「学習活動」は、さらに「問題または討議」、「調査」、「実演」、「実習」、「見学」、「練習」などに細分化されている。

第三に、日本の学習指導要領の場合、家庭科の内容は「I. 被服」から「VIII. 住居」まで、目録 (領域) 毎に単元構成されているが、ニューヨーク州カリキュラムの場合、単元は学年毎に構成されている。

第四に、各種教材の利用という点で考えると、例えば映画の視聴は、要領の場合は、ニューヨーク州カリキュラムに比べると極めて少ない。昭和24年当時、映像を初めとして、家庭科で使用できる教材は極端に不足していたためであろう。

表2. ニューヨーク州家庭科カリキュラム“Planning Guide HOMEMAKING EDUCATION”中の  
『HOMEMAKING 1』の内容構成

- [H1-U1] 単元名：家族や他人と暮らすこと  
[H1-L1] 基本的学習：集団生活に順応する  
[H1-A1] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動：
- ① 職業に関係なく、人々が恵まれた、充実した生活を送るのに家庭科教育が貢献できる可能性について討論せよ。議論を行い、このための1年間の活動計画を立てよ。
  - ② シンポジウムで生徒の興味やクラスの人たちの趣味、それらが高校のキャリアにどのような影響を及ぼすのかということを発表せよ。グループ学習で趣味を展示するよう計画せよ。地元で熱狂的な趣味を持っている人に趣味について発表したり、説明してもらいなさい。
  - ③ 高校の指導カウンセラーによる最大の恩恵を得る方法についてのパネルディスカッションを計画せよ。
  - ④ 環境、姿勢、活動などの方法を示しつつ、学習習慣の良い所と悪い所を鮮やかに表現せよ。
  - ⑤ 学習とレクリエーションの計画を立てよ。利用可能になるまでそれを用いたり、調整せよ。
  - ⑥ 好条件と悪条件を視野に入れ、あなたの勉強部屋や場所を評価し、改善に当たっての計画も立てよ。その結果を報告せよ。
  - ⑦ (1) 友達を選び、交友関係を結び、関係を維持していくことにおいて、重要な側面を強調している事例や物語、映画、漫画を見て討論せよ。(2) 友達の価値について例を挙げてはっきりと説明している事例や物語、映画、漫画を見て討論せよ。(3) 学校の習わしにふさわしい事例や物語、映画、漫画を見て討論せよ。
  - ⑧ さまざまな家族、国民、民族の習慣について調査し、報告せよ。習慣が反映しているものを分析せよ。これらをいわゆるアメリカの習慣と融合させるための方法を研究せよ。「アメリカの習慣と呼ばれるものは存在するのか。」という問題について討論せよ。
  - ⑨ 集団で生活していくための規律をまとめよ。
- [H1-L2] 基本的学習：家庭生活から得られる利益や充足感を認識する  
[H1-A2] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動：
- ① 「家族が食と住以外に、家族の構成員に与えるもの」、即ち安全、一体感、保護、私生活、理解などについて、図解入りのレポートで発表せよ。
  - ② 多くの国々の家庭生活を示した事例を発表せよ。
  - ③ なぜ人々は家族という集団を維持しようとする傾向にあるか、その理由に関する議論を分類せよ。
- [H1-L3] 基本的学習：家族が家族構成員の生活に与える影響を理解する  
[H1-A3] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動：
- ① 充実した家庭生活により貢献されると推察される活動を表にせよ。各々が家族の幸せにどのように影響するか、評価せよ。
  - ② 家族向けのラジオ放送を利用する際に協力し合うための計画を立てよ。
  - ③ 家族の協力を描いた寸劇や動画を発表せよ。
  - ④ 母親が休んだときの家の管理について計画せよ。母親と娘の満足という観点から、結果を評価せよ。
  - ⑤ あなたと母親が特別の楽しみを得ることができることを示す一週間の家事計画を立てよ。この計画が手助けになる方法を記録するよう母親に提案せよ。
  - ⑥ 誕生日、記念日、休日といった特別の日に、この計画を観察するために実行せよ。
- [H1-L4] 基本的学習：家計の管理において、自分の役割について理解する  
[H1-A4] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動：
- ① 金銭の個人的な要求を表にせよ。
  - ② 一定の期間の金銭の支出について記録をつけよ。
  - ③ 家族の収入がどのように分配されているかを調べよ。個人の分配に関して、家族全体の要求を考慮せよ。
  - ④ あなたの小遣いを分析し、支出に対する予算を計画せよ。
  - ⑤ 家計管理に関する映画を視聴し討論せよ。
  - ⑥ 特別の金銭を稼ぐ方法を表にせよ。
  - ⑦ 家族の実収入に貢献する方法を学習せよ。
  - ⑧ 簡単に比較できるコストの研究せよ：購入することと作ること。
  - ⑨ 「小遣いをどのように使うか」、「お金をどのように貯めるのか」、「夏休みに稼いだお金を使うこと」、「ベビーシッターで稼いだお金を使うこと」などのトピックスについてレポートを書け。
- [H1-L5] 基本的学習：家族構成員と友達を喜ばせるための計画を立て、実行せよ  
[H1-A5] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動：
- ① 費用のかからないパーティーの種類や、さまざまな家族構成員が楽しめるレクリエーションの他の形態について、参考資料を集めよ。
  - ② 家庭でパーティーが計画されたときの必要な調整を考えよ。
  - ③ さまざまな年齢層の家族構成員が一緒に楽しめるタイプのゲームを提案せよ。これらのゲームのいくつかを作り、実施せよ。
  - ④ 委員会を、家族と一緒に野外で利用できるゲームを作り、計画せよ。
  - ⑤ 数週間にわたって、一週間に一度、家庭で家族の夕べを計画し、実行せよ。このプログラムはFBAプログラム計画の一部でもある。
  - ⑥ 家庭で家族パーティーを計画し、実行せよ。すべての家族構成員や、楽しむために利用できる空間について考慮せよ。計画は、一人或いはグループで立てても良い。
  - ⑦ すべての人が楽しい時間を過ごせたか、金銭面、計画や準備、片づけを含めた構成や管理の観点から、パーティーの成功について評価せよ。
  - ⑧ 学校新聞や地元紙にホームパーティーの記事を書け。
  - ⑨ さまざまな年齢層の人々のために、パーティーの食事を計画し、準備せよ。食事の準備において、家族の構成員を表現せよ。社会的意義の観点から、食事の成功を評価せよ。
  - ⑩ クラス委員会はこの単元の評価の一部として、異なる年齢層のパーティーを計画し、実施せよ。
- [H1-U2] 単元名：家族のための食事  
[H1-L1] 基本的学習：栄養上適切な食事の献立を立てる  
[H1-A1] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動：
- ① 数日にわたって、あなた自身の食物摂取量を記録せよ。記録を7つの基礎食品群(Basic 7)と照合せよ。
  - ② 7つの基礎食品群が含まれているかどうか確認するために、一週間あなたの家族に出された食事を調べよ。必要があれば、改善を提案せよ。
  - ③ 3度の簡単な食事の献立を計画し、栄養価を評価するために図表を作成せよ。(Bardeenの栄養価表を参照せよ。)
  - ④ 豊富な食物と地方の食物供給について考察せよ。
  - ⑤ 栄養価と経済面から、家族のメニューを改善せよ。さまざまな構成員の要求を考慮せよ。
- [H1-L2] 基本的学習：食事の準備にかかる時間と労力を管理するいくつかの基準や能力を開発する  
[H1-A2] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動：
- ① 器具の配置と保管を見るために、台所を調査せよ。
  - ② 上記で計画した食事を準備せよ。取り扱いの手順、技能、見た目の美しさ、味、出し方、必要な改善点について調査せよ。
  - ③ 演示や討論を通して、器具(流しやストープ、冷蔵庫)の取り扱い方、台所でのごみの取り扱い方、食器洗いの方法、キッチンでの様子、安全性、衛生面を気をつけなければならないこと、効率などを関心を持って、学校で利用できる評価表を準備せよ。

評価のために、これらの学習を家庭で行う手順と関連づけよ。

- ④ 将来の食事を計画するために、表とワークシートを利用せよ。
- ⑤ 手順方法を改善するために、成功した実験授業を評価せよ。清潔さ、衛生設備、安全面を強調せよ。
- ⑥ 食事の準備で利用される台所器具の効率や効率的な使用に貢献する特徴について分析せよ。
- ⑦ 一定期間、あなたの家庭の冷蔵庫をきれいにせよ。
- ⑧ 家庭で、母親が台所の食器棚や片づけたり、器具を整頓するのを手助けせよ。
- ⑨ 家庭で魅力的且つ効率的な皿洗いセンターを整理せよ。
- ⑩ 台所で細かい作業を改善するために計画を立て、実行せよ。

[H1-L3] 基本的学習 : 簡単な料理を準備し、食卓に出す際に手引きとして食事パターンを利用する

[H1-A3] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動 :

- ① グループの要求に適した基本的な食事パターンを計画せよ。
- ② これらのパターンに基づいた一連の簡単な食事を計画し、準備せよ。毎回の食事の異なるパターンを強調せよ。素早く準備できる3種類の食物を含めよ。
- ③ 例えばトマトであれば、(1)スープ、(2)マカロニとチーズ、(3)グーラッシュ、(4)波状模様のトマト、というように、一つの食材をさまざまな方法で利用せよ。
- ④ 食事の際に望ましい社会的行動を実践するために、簡単ではあるが、魅力的な食事を出すこと。
- ⑤ 家庭で一連の食事を部分的或いは完全に準備する責任を引き受けよ。

[H1-L4] 基本的学習 : 買い物をする順序を計画し、食物を購入し、保存する能力を開発する

[H1-A4] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動 :

- ① メニューを計画し、買い物物の順序を作成し、残った食材の利用を計画し、できれば計画された食事の買い物物をせよ。
- ② 家族の食事の値段を決定するために、実際の食材の値段を利用せよ。
- ③ 一定期間、残り物に関心を持ち、利用せよ。家族が喜ぶような食事を計画し、準備せよ。
- ④ 家事のセンターでの食物の保存に対する責任を持って。
- ⑤ 一定期間、家族の食物について買い物物の準備をしたり、買い物物の責任の一部或いはすべてを引き受けること。
- ⑥ クラス討論での買い物物経験を報告し、比較せよ。
- ⑦ 冷凍食品と生鮮食品の値段を比較せよ。出来合いの食物と家庭で作ったものを比較せよ。
- ⑧ 栄養価と関連して、かなりの食物の値段を研究せよ。

[H1-L5] 基本的学習 : 食事を準備したり出す能力を獲得する

[H1-A5] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動 :

- ① 紹介されたように、食事の準備を実演せよ。
- ② 各々の食事において、サラダやデザート、主菜、飲み物などを作るスキルを開発する機会を計画せよ。これらの料理を審査するために点数カードを準備し、使用せよ。
- ③ 利用できる時間と金銭の点から考えて、調理された素の賢明な使い方を演示したり、実践せよ。
- ④ 簡単ではあるが、食事やコースのセッティングにおいて、魅力的な食物を出すこと。家族の食事サービスを強調せよ。
- ⑤ スキルを改善するために、家庭で食物を準備せよ。
- ⑥ 準備する食物に関して、土曜日にパンを焼く計画を立てよ。
- ⑦ 学校のランチを魅力的且つ栄養的に詰め合わせる。
- ⑧ 家族構成員が楽しい時間を過ごしているとき、軽食を計画し、準備せよ。
- ⑨ デザートや副菜など、家族の食事を準備する責任を引き受けよ。
- ⑩ 家族のために新しい食事や食物を紹介せよ。
- ⑪ 興味を起し、栄養的な食事のレシピを作成せよ。

[H1-U3] 単元名 : 自分自身と他人を理解するという事

[H1-L1] 基本的学習 : 他人の理解を通して自分自身を理解する

[H1-A1] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動 :

- ① 若者の友情物語を分析せよ。含まれる要素について討論せよ。
- ② 自己評価の性格測定尺度を準備し、利用せよ。
- ③ 自分勝手さや嘘をつくこと、恥ずかしがり、泣き虫、癡癡、面白がって笑うことなどの情緒的バランスと動揺の徴候として、幼稚園児、小学校一年生、幼い弟や妹を観察せよ。
- ④ 通りや学校の廊下で見られる情緒的行動を観察したり、考えたことを書け。
- ⑤ これらの観察を討論し、子どもの行動に関する原則を作成せよ。
- ⑥ 同じ原則が高齢者たちにはどのように適用されるか討論せよ。
- ⑦ 少年と少女に共通する感情を表にせよ。
- ⑧ 二つの年齢段階での情緒的行動を比較せよ。生徒間での情緒的障害を処理する方法を討論したり、決定せよ。
- ⑨ 感情とその様相が表れている物語を読み、報告せよ。
- ⑩ 背景として、教科書や参考文献で用いられている性格論争の原因と結果について討論せよ。(事例や新聞、雑誌などを含めよ。)
- ⑪ 家族構成員内での論争の原因を表にせよ。
- ⑫ (他のクラスや地域の人を招いて)「個人の行動がどのように学校や地域などに影響を及ぼしているか」について、パネルディスカッションせよ。
- ⑬ 家庭や学校での個人的関係を改善するプロジェクトを選び、推進せよ。これらの経験の結果として、情緒的葛藤を克服した結果を評価せよ。

[H1-L2] 基本的学習 : 若者が生来、自立を切望することを認識したり、両親、他の大人、友達に社会的に受け入れられることを達成する方法を見出す

[H1-A2] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動 :

- ① 「あなたとあなたの家族」のような映画を視聴し、討論せよ。
- ② 家族外の若者の興味関心、例えば守るべき時間や友達への選択、道徳的基準、家族用自動車を使うこと、金銭を得る必要性に関する両親の態度について討論せよ。
- ③ 上記の問題の各々について調べ、討論し、発表せよ。
- ④ 「自立の欲求は、生徒が成長していることを示すのか。」という疑問について考えよ。生徒の発達における社会的、精神的、身体的、情緒的変化の説明について、教科書を調べよ。
- ⑤ 生徒が自分で望む自立の準備ができていないことを、自分自身や両親に証明できる方法について討論せよ。
- ⑥ この学習の始めに、ホームメイキングセンターの管理やグループ構成の責任を各々のクラス構成員に委任せよ。最後には、自立のレディネスを決定する手段として、責任がどれほど受け入れられたか評価せよ。
- ⑦ 共通の心配事や問題について討論するために、両親をクラスに招待せよ。出来る限り、これをクラス構成員に任された社会的機会とせよ。親と生徒との討論を鼓舞するために、動画や記録を利用することは賢明であるかもしれない。

[H1-L3] 基本的学習 : 社会的に容認されたやり方で仲間と楽しい時間を過ごす方法について理解する

[H1-A3] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動 :

- ① 女友達も男友達も享受できるタイプの娯楽やレクリエーションについて討論し、表にせよ。
- ② お金をかけずに楽しむ方法を調査し、クラスに報告せよ。
- ③ 各々のクラスの構成員に紹介したり、グループにゲームを教えよ。知己を得るためのゲーム、関わり合うためのゲームなど。これ

- らはホームパーティーやFHA活動などに適している。
- ④ エチケットの決まりや、なぜそれらが発達したのか、従うことによる利益、従わないことによる罰、いつ我々が脱線するのかなどを学習し、分析せよ。委員会は異なる国民性について報告せよ。
  - ⑤ 次のような問題を調べ、分析せよ。
    - 1 友達をパーティーに招待する方法、2 パーティーの食事を計画し準備する方法、3 どんなタイプの飾りつけをするか、4 両親に友達を紹介する方法、5 どんなゲームで遊ぶのか、6 初対面の人たち(少年少女)とどのような話をするのか
  - ⑥ 学校や家庭でのパーティーをいくつかのタイプに整理せよ。計画や準備に個人或いは委員会が活動せよ。紹介や会話を実践せよ。
  - ⑦ 催されたパーティーの成功や個人の参加の進展に基づいて評価せよ。

[H1-L4] 基本的学習：男子と女子の関係に関する問題を理解する

[H1-A4] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動：

- ① あなたの地域におけるデートの習慣について表にせよ。いくつかの例を討論のために選べ。
- ② これらの習慣に関する他の情報を得るために、書籍や雑誌、パンフレットを参照せよ。
- ③ 現在、あなたがパートナーとして選びたい男子や女子について説明せよ。
- ④ もしクラスに男子がいらないならば、デートの問題を討論するために、男子のグループを招待せよ。
- ⑤ 討論を進展させるために、優れた資質を持った地域のリーダーを招待せよ。
- ⑥ 男子と女子がデートのときに守るべき容認された手順を計画せよ。
- ⑦ マナー、電話のエチケット、女子を迎えに行く、ふさわしい服装、女子の家族に対する男子の義務、付き添い人に礼儀を示すこと。
- ⑧ これらの討論から進展するかもしれない特別の興味のために、テーブルに参考資料を準備せよ。
- ⑨ 個人的かつ社会的な問題について質問箱を利用せよ。これらの問題は個人やグループによる協議によって解決されるかもしれない。

[H1-L5] 基本的学習：家庭と社会で、容認された社会的行動を実践する

[H1-A5] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動：

- ① 個人的、社会的発達に寄与する個人の資質について分析せよ。
- ② グループ内で興味深い会話を奨励する方法を実践せよ。
- ③ より良い発言者になるために計画を立て、改善を実践せよ。
- ④ 学校新聞にエチケットのコラムを載せるよう計画し、編集せよ。
- ⑤ 他人が次のことをするよう手助けする方法を工夫せよ。(1)マナーを意識する、(2)スポーツ大会や音楽祭、FHAの集会などの教室活動で利用される社会的行動の指針を準備することを通して、改善に興味を持つ。
- ⑥ 教室や寮、ランチルーム、廊下などで見受けられる改善されたマナーについて、エチケット・コラムの効果を観察し、評価せよ。
- ⑦ 集会プログラムを計画し、発表せよ。「できるだけ良い印象を与えること」：これは、少年少女の毎日の出来事の軽い風刺を含む。
- ⑧ 良いマナーに関する特別の問題を取り扱う「Seventeen」や「Calling All Girls」、「McCall's」のような大衆雑誌の記事を切り抜いて、スクラップブックを作成したり、掲示板に、記事を貼れ。
- ⑨ 「あなたとあなたの友達」のようなフィルムストリップを視聴し、討論せよ。
- ⑩ 「10代の人たちはマナーが悪い」とか「マナーは重要である」などについて討論せよ。
- ⑪ あらゆる年齢層の人々が良いマナーを実践する重要性を示した事例について討論せよ。

[H1-L6] 基本的学習：子どもの欲求と、子どもはなぜ欲するところに従い、行動するのか理解する

[H1-A6] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動：

- ① 子どもについて、一般に受け入れられる事実のリストを作成せよ。例えば、各々の子どもは、すべての他の子どもと異なる。実際、ほとんどの子どもが注意を引きつけようとする。子どもの協力は大体、積極的な提案を行うことによって得られる。子どもは大人の真似をしたがる。
- ② 幼稚園や運動場、スクールバスで子どもを観察するために、これらの一般に受け入れられている事実に基づいたガイドシートを利用せよ。観察したことを分析したり、指導のために積極的に指示せよ。
- ③ ホームメイキングセンターでの異なる年齢グループの子どもの活動をもとめよ。
- ④ 次の問題を討論せよ。「好んで交替する子どもとそうでない子どもがいるのはなぜか。」、「子どもが分担するのを援助する方法とは何か。」、「玩具は子どもの身体的発達をどのように援助するのか。」
- ⑤ 幼稚園や小学校低学年の子どもが校庭で活動するのを手助けせよ。
- ⑥ 若い子どもの世話をした体験を報告し、討論せよ。

[H1-L7] 基本的学習：余暇の時間を賢明に使うことの意義を実感する

[H1-A7] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動：

- ① 次の問題を考察せよ。「余暇の時間はいつも、問題であり続けるのか。」、「この問題は何が原因か。」、「余暇の時間が建設的な結末に方向づけられないならば、何が危険なのか。」
- ② 余暇の意味と価値、それが如何に身体的、精神的、社会的及び情緒的利益を人にもたらすか、討論せよ。
- ③ 委員会はグループ討論のために、さまざまな種類の余暇時間の活動を報告せよ。
- ④ あなたとあなたの家族が一緒に楽しめる趣味を計画し、実行せよ。
- ⑤ 活動的レクリエーションと受動的レクリエーションを区別せよ。
- ⑥ 野外での食事を計画し、戸外で準備せよ。
- ⑦ 家族に関する雑誌の望ましいリストを作成せよ。
- ⑧ 選択や開発を留意した趣味について報告せよ。
- ⑨ 趣味を見せたり、趣味について報告する興味深い趣味を持つ市民を招待せよ。
- ⑩ 良く配慮し蓄えた趣味の展示を準備せよ。これらの社会的、経済的、知的価値を討論せよ。
- ⑪ あなたの趣味の展示と蓄え、或いは家族の構成員のそれより良い施設を計画し、準備せよ。

[H1-U4] 単元名：家庭で緊急事態に遭遇する

[H1-L1] 基本的学習：家庭で起こる非日常の状況に対して責任を負う

[H1-A1] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動：

- ① 病気或いはアクシデントを含まない状況に対して、家庭で強調する緊急事態とは何か、考えよ。(会合で遅くなった母親、突然来訪の友達、夕食時に来客のいない生徒など。)
- ② 過去あなたの家庭で生じた緊急事態の種類を、その原因と一緒に表にせよ。これらの緊急事態のいくつかに遭遇する可能性のある方法を提案せよ。
- ③ 病気のときに家庭でなされなければならない対応について討論せよ。
- ④ もし母親或いは他の家族構成員が病気になったとき、あなたの家庭を管理する一部或いは全体の責任を負うこと。
- ⑤ 生徒が責任を負うことができる方法を提案せよ。これらには、次のことが含まれる。
  1. 静かで、風呂や台所に移動しやすい部屋に患者を移すこと、2. 花や雑誌、ゲームを用意すること、3. 患者の世話をしている人が休息できるように交替すること、4. 患者の妨げにならないように子どもの世話をしたり、一緒に遊ぶこと。
- ⑥ 家庭でこれらの責任のいくつかを遂行せよ。
- ⑦ 患者の福祉のために調和の気持ちがなぜ重要か、混乱の状態がどうして、なぜ生じるのか、討論せよ。

[H1-L2] 基本的学習：病気になった家族構成員の世話をする責任を負う

[H1-A2] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動：

- ① 生徒が学校外で罹る病気の表を作成せよ。これらの病気の症状や、これらがどのように広がるのか討論せよ。
- ② 熱や脈拍、呼吸の計り方を演示し、実践せよ。
- ③ 「病院のベッド」をつくることを(学校で)演示し、(家庭で)実践せよ。ベッドの整え方や寝たまま風呂に入れる方法を演示



するよう養護教諭或いは訪問看護婦に尋ねよ。

- ④ 家庭医に協力する方法を考えよ。
- ⑤ 薬を調合し投与することを演示せよ。
- ⑥ 患者を快適にするさまざまな方法を示し、討論せよ。
- ⑦ 身体的健康と同様に精神的健康の重要性を討論し、療養中の患者を楽しめる方法を工夫せよ。訪問者の責任について表にせよ。
- ⑧ 理学療法や作業療法に関する最新の雑誌記事を読んで、報告せよ。
- ⑨ 編み物やジグソーパズル、スクラップブックのように、療養中の患者を援助する手芸を学び、実践せよ。
- ⑩ 患者（大人と子ども）のためにスクラップブックを作成したり、鉛筆とペーパーゲームを準備せよ。
- ⑪ 病室をすばやく、静かにきれいにする方法を実演せよ。
- ⑫ 光と新鮮な空気を調節する方法を演示し、実践せよ。
- ⑬ 例示教材としてクラスで、或いは家庭で利用されるさまざまな器具を作製することを演示せよ。これらはベッドパンカバー、氷嚢、寄りかかり、ティッシュ入れ、改善されたベッドブロックを含む。
- ⑭ 家庭での病気の世話に関して、時間とエネルギーの賢明な活用を計画するために、かかりつけの看護婦への要望について討論せよ。
- ⑮ 患者の日常的世話の重要性と記録を取る必要性について議論せよ。記録シートを開発せよ。
- ⑯ 援助が必要とされる病院や患者の家庭で、患者の食事や他の簡単な雑用を手助けせよ。
- ⑰ 家庭で病気になる人の世話をする責任を負うこと。
- ⑱ 「医者が必要とするとき」、「医者があなたを健康にする方法」、「保健婦（Public Health Nurse）の活動」について話してもらうために、医者や看護婦、健康センターの代表者を招待せよ。
- ⑲ 必要ないサービスを選ぶ際に含まれる要素について考えよ。正看護婦と準看護婦、一般開業医と専門医、病院と家庭。

[H1-L3] 基本的学習：家庭の応急手当品を選び、保管する

[H1-A3] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動：

- ① 家庭でそれぞれの品目のあり場所が分かる応急手当品を確認せよ。
- ② 「応急手当品はどうして特別の容器に入れるべきなのか。」、「応急手当品はなぜ特別の場所に置かれるべきなのか。」といった疑問について考えよ。
- ③ 良い応急手当キットの中身について表にせよ。
- ④ 家庭で適当な応急手当キットを準備せよ。（改善されたものが作成されるかもしれない。）
- ⑤ 学校の応急手当キットを確認せよ。何が追加品や代用品として、作成されるか。
- ⑥ 自己治療の危険性について論ぜよ。
- ⑦ 薬棚の適切な位置を考え、何が含まれるべきか論ぜよ。すべての薬に正しくラベルを貼る重要性を強調せよ。
- ⑧ 家庭で使用するために包帯を作り、消毒せよ。応急手当棚か、応急手当キットに蓄えよ。
- ⑨ 家庭や車に応急手当キットを準備せよ。

[H1-L4] 基本的学習：軽いけがを処理する能力を発達させる

[H1-A4] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動：

- ① やけど、切り傷、打撲、捻挫などの怪我の適切な処置を実演し、実践せよ。
- ② 必要な折り、家庭での軽い怪我の適切な処置を実践せよ。
- ③ 軽い切り傷ややけどの際の包帯の巻き方を実演し、実践せよ。
- ④ 歯痛、耳痛、目の痛み、痙攣、風邪などの軽い病気の家庭での処置について論ぜよ。

[H1-L5] 基本的学習：家庭の安全を守るための家族の協力

[H1-A5] 家庭、学校、地域における望ましい経験と活動：

- ① 「にぎやかな通りよりも家庭で事故が起こる危険性の方が大きい。」という報告書について討論せよ。「家庭の安全」という映画を説明のために利用せよ。② 家庭の安全について「全米安全審議会（National Safety Council）」のチェックシートに記入せよ。
- ③ 家族の努力によって家庭が安全になる方法を、すべての生徒に計画させよ。優れた安全性の実践例として、学校の施設を利用せよ。
- ④ 望ましいホームプロジェクトは、家庭で安全性を改善する方法を計画することである。
- ⑤ 生徒のグループは、教室に戻って報告し、次のような安全に関する家庭実習を実演・展示せよ。  
良いクローゼットの配置、圧力鍋の使い方の安全な実践、電気器具の正しい使い方、正しいごみの処理の仕方、人の多い部屋での安全、高齢者の家庭での安全。

(“Planning Guide HOMEMAKING EDUCATION”, pp.61~76.)

表3は、ニューヨーク州の中等学校家庭科カリキュラム第1学年用と二十四年度版要領の関連内容を対比したものである。

この表が示すように、II（家庭経済）は3、III（家庭管理）は6、IV（家族）は6、V（食物）は6、VI（衛生）は9、VII（育児）は4、VIII（住居）は1カ所、ニューヨーク州カリキュラムと深く関連していた。これらを合計すると、関連箇所は35カ所に上っている。

例えば、日本の学習指導要領のIII（家庭管理）領域の単元2「時間と労力の管理」、目標「家務の技術的練習設備を選択する知識と、これを適当に配置する能力」の「学習活動」では、「(4) 家族数家屋の大きさなどの条件のもとに最少限の設備を試みる最も有効に家具道具を活用する考案と費用節約の演習」、(5) 設備や家具は配置のいかんによって、働く人の能率に非常に関係することを実地について試みる（置きかえて）。台所の例をとれば、わが家の場合、他家の場合を縮尺で作図し、配置によって導線の変化、採光のぐあいな

どを研究する。家庭で実地について調べてみる<sup>8)</sup>。」と記されている。これに対してニューヨーク州カリキュラムでは、「①器具の配置と保管を見るために、台所を調査せよ。」、「③演示や討論を通して、器具の取り扱い方、台所でのゴミの取り扱い方、食器洗いの方法、キッチンでの様子、安全性、衛生面で気をつけなければならないこと、能率などに関心を持つこと<sup>9)</sup>。」と記されている。両者を比較すると、内容構成の形式的枠組みだけでなく、具体的な文言においても似ていることが認められる。短時日しか許されていなかったにもかかわらず、行動目標を使用し、問題解決学習を志向した現代的な二十四年度版要領は、このようにニューヨーク州の最新の家庭科カリキュラムを参考にして作成されたようである。

## おわりに

これまで明らかにしてきたように、『昭和二十四年

表3. 『昭和二十四年度学習指導要領家庭科高等学校用』と“Planning Guide HOMEMAKING EDUCATION”(1年生用)の関連内容対比表

二十四年度学習指導要領家庭科				Planning Guide HOMEMAKING EDUCATION					
目録 (領域)	単元	目標	学習 活動	記載 ページ	学年	単元	基本的 学習	学習 活動	記載 ページ
II	1	4	4	37	1	1	4	8	63
II	2	5	10	41	1	1	4	4	62
II	4	2	4	49	1	2	4	3	65
III	2	4	4	69	1	2	2	1,3	64
III	2	4	4	69	1	2	2	6	64
III	2	4	4	69	1	2	2	7	64
III	3	4	4	73	1	1	3	5	62
III	6	5	7	81	1	1	5	5	63
III	6	7	13	81	1	1	5	5	63
IV	1	1	3	91	1	1	1	7	61
IV	1	4	2	91	1	1	1	7	61
IV	1	5	1	91	1	3	3	5	69
IV	2	5	2	93	1	3	7	4	72
IV	2	5	2,3	93	1	1	1	2	61
IV	3	5	5	97	1	1	2	1	62
V	1	3	3	113	1	2	1	4	64
V	2	1	11	115	1	2	5	7	66
V	2	1	23	117	1	2	3	4	65
V	2	3	6	119	1	1	5	6,9	63
V	4	3	7	127	1	2	4	7	66
V	4	4	2,3	129	1	2	1	3	64
VI	1	5	1	139	1	4	2	1	73
VI	2	13	3,4	143	1	4	5	1~5	76
VI	3	5	1	153	1	4	4	1~4	75,76
VI	4	1	2	155	1	4	2	5	74
VI	4	1	3	155	1	4	3	6	75
VI	4	1	4	155	1	4	2	4	74
VI	4	2	4,5,6	157	1	4	2	11,12	74
VI	5	1	1,2	157	1	4	3	2~4	75
VI	5	2	2	157	1	4	3	7~9	75
VII	2	5	2	165	1	3	1	3	67
VII	2	5	2	165	1	3	6	1	71
VII	2	5	2	165	1	3	6	6	72
VII	4	4	5	175	1	3	6	4	71
VII	3	-	9	183	1	2	1	9,10	65

(『昭和二十四年度学習指導要領家庭科編高等学校用』と“Planning Guide Homemaking Education”とを比較して筆者が作成した。)

度学習指導要領家庭科編高等学校用』の内容構成は、CIEのルイスが日本側学習指導要領作成委員会に提示したニューヨーク州の中等学校家庭科カリキュラム『Planning Guide HOMEMAKING EDUCATION』に原型が見られる。また、教科課程の編成については、ルイスが来日中にホームプロジェクト実験学校用手引として作成した『HOME PROJECT METHOD Homemaking Education』(和訳名『新制高等学校家庭科家庭実習(ホームプロジェクト)の手引』:1948年文部省発行)に原型を求めることができる。

『昭和二十四年度学習指導要領家庭科編高等学校用』の教科課程においては、『一般家庭』は、被服コース(被服, 経理, 家族)と食物コース(食物, 保健・育児, 住居)に分けて各七単位を与え、その履修後に選択科目を取ることができるとした。

ルイスの計画では、1年生で「食物, 被服, 保健・育児」を、そして2年生で「経理, 家族, 住居」を学習し、3年生ではそのうえで選択科目を履修するとしていた。また、ルイスは、少なくとも2学年までは全ての女子に家庭科を必修せしめることが望ましいと考

えた。この考えは二十四年度要領に「特に女子はその将来の生活の要求にもとづき、いっそう深い理解と能力を身につける必要があるので、家庭生活の一般に関する学習を少なくとも十四単位必修させることが望ましい<sup>10)</sup>。」という文言で盛り込まれた。

ルイスがニューヨーク州の家庭科カリキュラムに基づいて示唆した教科内容は、教育課程改正委員会家庭小委員会や重松伊八郎事務官によって、日本の家庭生活の現状と改善の方向を加味して修正されていったこと<sup>11)</sup>は確かである。

【注】

- 1) 新制高等学校の家庭科教育は、1947(昭和22)年5月15日の『学習指導要領家庭科編(試案)昭和二十二年度』の発行によって成立したと見ることができ、この学習指導要領は、文部省の家庭科担当官、重松伊八郎自らが述べているように、「事情があって小・中学校のその程度にも研究の余裕をもたなかった、未熟な、間に合わせのものである。」として、成立当初から改訂が急がれていた。(重松伊八郎「新制高等学校家庭科の教育」, 尚学社編集部編『新制高等学校の教育』, 1948, p.172.)
- 2) “Homemaking-Course of Study”, GHQ/SCAP, CIE Records, Box no.5759.
- 3) “Home Project Method-Homemaking Education”, GHQ/SCAP, CIE Records, Box no.5759.
- 4) 清水房『ホーム・プロジェクトと私』, 自費出版, 1987, pp.4-5.
- 5) 熊本縣教育委員会事務局指導室編「高等学校に於ける新教科課程の解説」, pp.24-25。(熊本県立八代高等学校所蔵資料。なお発行は推定1948年。)
- 6) 同上書, pp.27-28.
- 7) Bureau of Home Economics Education, “Planning Guide HOMEMAKING EDUCATION”, New York: The State Education Department, 1950.
- 8) 文部省『昭和二十四年度学習指導要領家庭科編高等学校用』東京:中等学校教科書株式会社, 1949, p.69.
- 9) Bureau of Home Economics Education, op.cit., p.64.
- 10) 文部省, 前掲書, p.2.
- 11) Dora Lewis, “Glimpses of Life in Japan”, Practical Home Economics, Vol.XXVII, No.3, 1949, p.174. この報告の中で、ルイスは、文部省の家庭科小委員会が戦後の家庭生活の改善のために何が緊急に必要とされているかを真剣に考え、様々な調査を執行して、教科課程の内容を決定して行ったと述べている。